


団体名	兵庫県高等学校教育研究会 生物部会 西播磨支部 (姫路城自然調査グループ)		
団体の所在地	相生市	代表者名	廣瀬 成俊

1. 事業名	姫路城(周辺)自然調査		
2. 実施期間	平成22年 4月 1日～平成23年 3月31日		
3. 主な実施場所	姫路市 姫路城(周辺)		
4. 活動形態	・調査活動		
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	<p>・平成22年度の調査。原始林については全植物調査(12回)、植生調査(2回)、鳥類調査(秋から4回)、昆虫調査(4回)、タンポポ調査(5回)、堀の生き物調査(4回)、堀の樹木調査(4回)を行った。(延べ35回、参加教師51名、参加生徒92名)</p> <p>・姫路城自然調査中間発表会2(平成23年3月27日実施)自然調査した内容をその調査高校、教師などによる発表(堀の生き物、樹木調査、タンポポ調査、原始林の植物調査、植生調査、鳥類調査など)、神戸大学の武田教授の講演会を実施した。姫路市民、中高生など62名参加いただいた。</p>		
6. 成果・反響・ 反省点等	<p>・発表会により、参加市民による励ましとアドバイスをいただき、高校生が自信を持つようになった。</p> <p>・植物調査により、原始林の植物が166種あり、40年前より増加しているが、それは乾燥に強いキク科などであった。植生調査ではタラヨウ群落からアラカシ群落に変化しているようだ。昆虫調査ではオサムシ類が発見できなかったが継続調査が必要。鳥類もこの春、夏も継続調査予定である。タンポポ調査では外来種特に雑種化が進んでいくと思われる。堀の生き物も外来化が進んでいるようだ。堀の樹木調査では原始林と違ってヒトの手が加わった樹木が見られる。より広い範囲で調査をする予定である。</p> <p>・原始林調査の結果から、姫路城の基本計画にシユロなど外来種の駆除の計画が立てられた。</p>		
7. 成果物	・調査結果を、日本生物教育会の第65回大会(兵庫県)の記念誌に発表など		
8. 活動写真 説明	 <p style="text-align: right;">姫路城タンポポ調査</p>		